

発言No.

7

受付No.

18

令和4年8月24日

10時34分 受付

一般質問発言通告書

議席番号 16 番

氏名 芦谷 英夫

答弁を求める者

市長 教育長 監査委員 選挙管理委員会委員長

(○をつける)

農業委員会会長 固定資産評価審査委員会委員長 公平委員会委員長

発言項目及び要旨

1、市民と地域と向き合う市政推進について

- ① 地域の日を実施する目的はどのようなものか、実際に出かけてみてどのような意見が寄せられ、地域の実情についてどのように把握し、実施してみたの所見はどうか。
- ② 協働のまちづくりを進め、まちづくり推進委員会で地域の自治がつくられるが、地域協議会がさらに機能するようにそのあり方、実質町内会長を兼ねている行政連絡員制度などを改革する必要はないか。

2、協働のまちづくりの推進状況について

- ① 地区まちづくり計画を策定されているが、その策定の状況はどのようになっているか、ともすれば行政の縦割りとなっているが、地区まちづくり計画が地区福祉計画など他計画との整合をどのようにとられているのか。
- ② まちづくり推進委員会に地域の自治活動の役割を担う、環境清掃指導員、福祉委員、すこやか員、保健委員、食生活改善推進員などが、協働のまちづくりの名の下、きちんと位置づけられ、活動できる態勢となっているのか。

3、民間活力との協働による地域活性化の構築について

- ① 飲食店情報サイト「ぐるなび」から職員の派遣を受け、地域活性化を推進されるが、具体的に事業展開する食や特産品の分野はどのようなことを想定していて、市の縦割りを超えた態勢をどうつくるのか、さらに民間事業者の参画が不可欠であるが、どのような構想を描いているのか。
- ② 観光の振興、石見神楽の振興などにおいても民間活力の導入、民間事業者の参画が必要であるが、これまでDMO（観光地域づくり法人）の提案をしているが、その後の検討状況はどうか。

4、健康づくりから介護予防まで、一体として進める態勢づくりについて

- ① これまで指摘してきた、要介護認定者数の高止まり、要介護認定率の上昇などに対して、具体的にどのような対策を打ってきて、これからどう介護予防事業を進める考えか。
- ② はまだ健康チャレンジ事業への参加、特定健康診査、がん検診など各種検診などの推移から、市民の健康づくりは十分行き届いているか。

5、公共交通を守る、市民の交通の便を確保することについて

- ① JRの利便性の向上が求められ、JRを活用した地域振興が必要であるが、これまでのJRに、国県に、善処方をその存続を求めることだけでなく、市として強力な運動を展開する、市としてJRを活用した新たな地域振興策を構築する必要があるのではないか。
- ② 高齢化率の上昇、運転免許返納者数、敬老福祉乗車券の販売数と使用数、どんちっちタクシーの利用者の要望、あいのリタクシーなどの事業化などの状況から、交通弱者対策の課題をどうとらえていて、これからどのように事業展開するのか。